

# 平成29年度上半期報告 説明資料

相互会社としての使命	．．．．． P1	健全性の状況	．．．．． P9
平成29年度上半期報告のポイント	．．．．． P2	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール	．．． P10
保険業績の状況(2社合算)	．．．．． P3 ～ P4	経営の差別化の歴史	．．．．． P11 ～ P12
保険料等収入の状況(2社合算)	．．．．． P5	価値観としての「お客さま基点」	．．．．． P13
資産運用の状況(富国生命単体)	．．．．． P6 ～ P7	(ご参考)主要業績	．．．．． P14 ～ P17
基礎利益の状況(2社合算)	．．．．． P8		

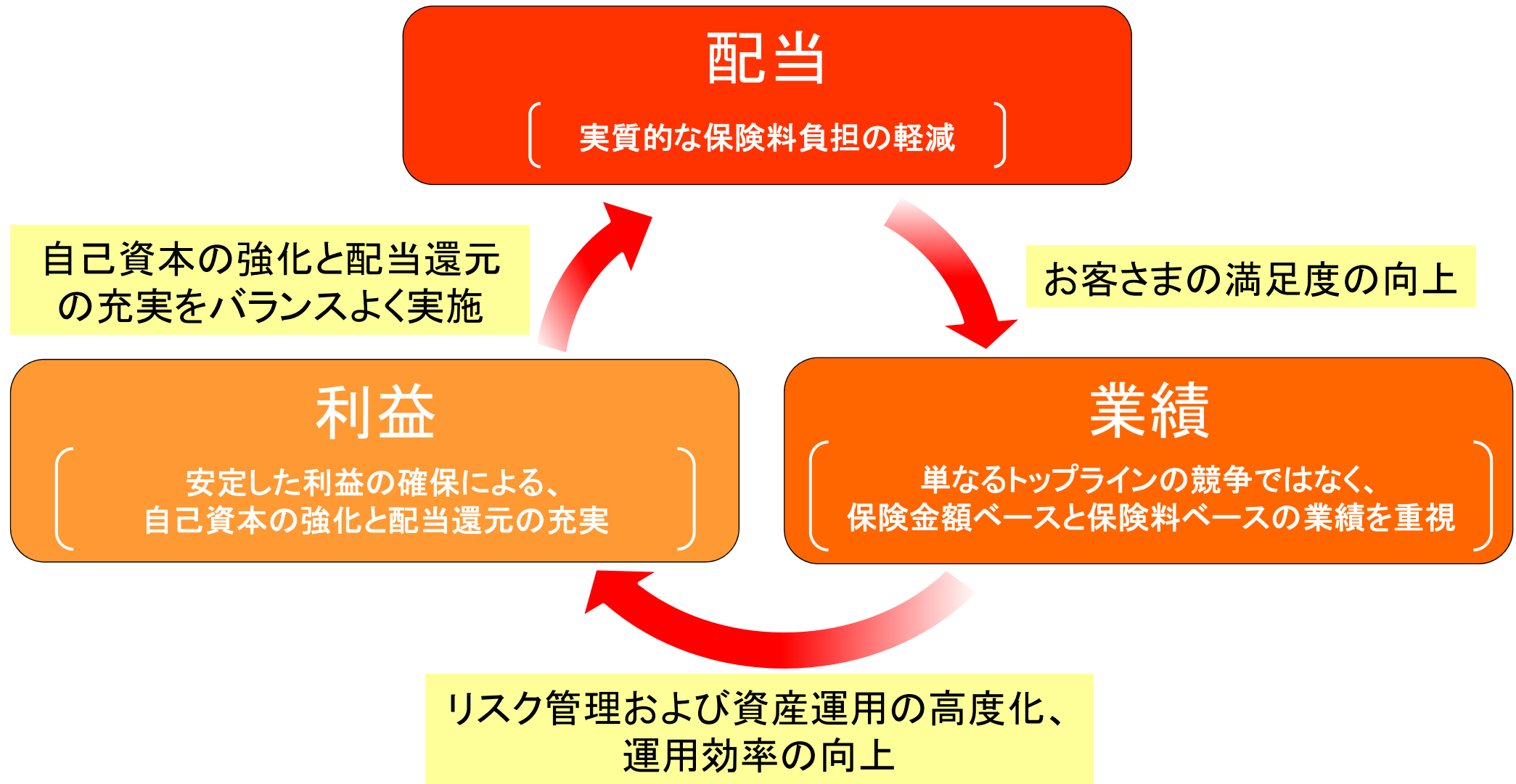
平成29年11月24日

富国生命保険相互会社

すてきな未来応援します



# 相互会社としての使命



安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。

# 平成29年度上半期報告のポイント

## 主力商品の販売は堅調に推移

- ◆ 予定利率引き下げによる貯蓄性商品の販売減で2社合算の新契約高・新契約年換算保険料は減少したものの、富国生命の主力商品である「未来のとびら」および医療保険「医療大臣プレミアエイト」の販売は堅調に推移
- ◆ 販売件数は、「未来のとびら」が前年同期比3.6%増加の80,662件、「医療大臣プレミアエイト」が前年同期比1.2%増加の89,215件

## 第三分野の保有契約年換算保険料は引き続き増加

- ◆ 保有契約年換算保険料は、富国生命・フコクしんらい生命ともに減少したものの、第三分野については前年度末比0.8%増加の1,116億円と引き続き増加傾向

## 解約失効も引き続き改善

- ◆ 2社合算の解約失効は、保険金額ベースで前年同期比1.9%改善の6,663億円、保険料ベースで前年同期比1.0%改善の84億円

## 基礎利益は開示以来最高

- ◆ 2社合算の基礎利益は、前年同期比17.1%増加の493億円
- ◆ 引き続き高い収益性を確保

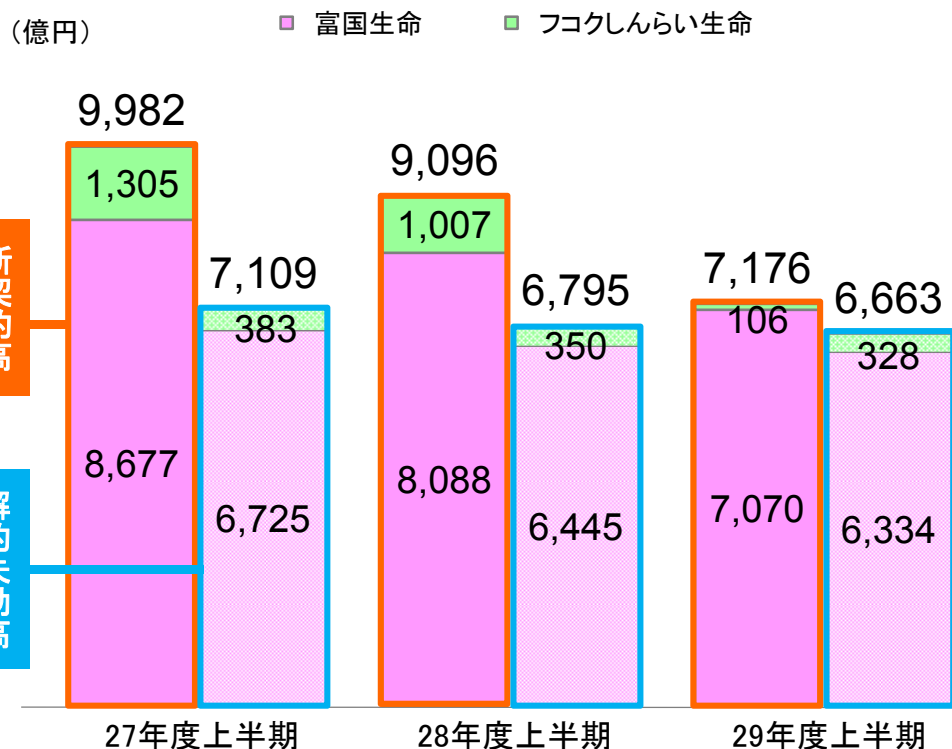
## 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から15.5ポイント低下となったものの、1,241.8%と引き続き高い水準を維持

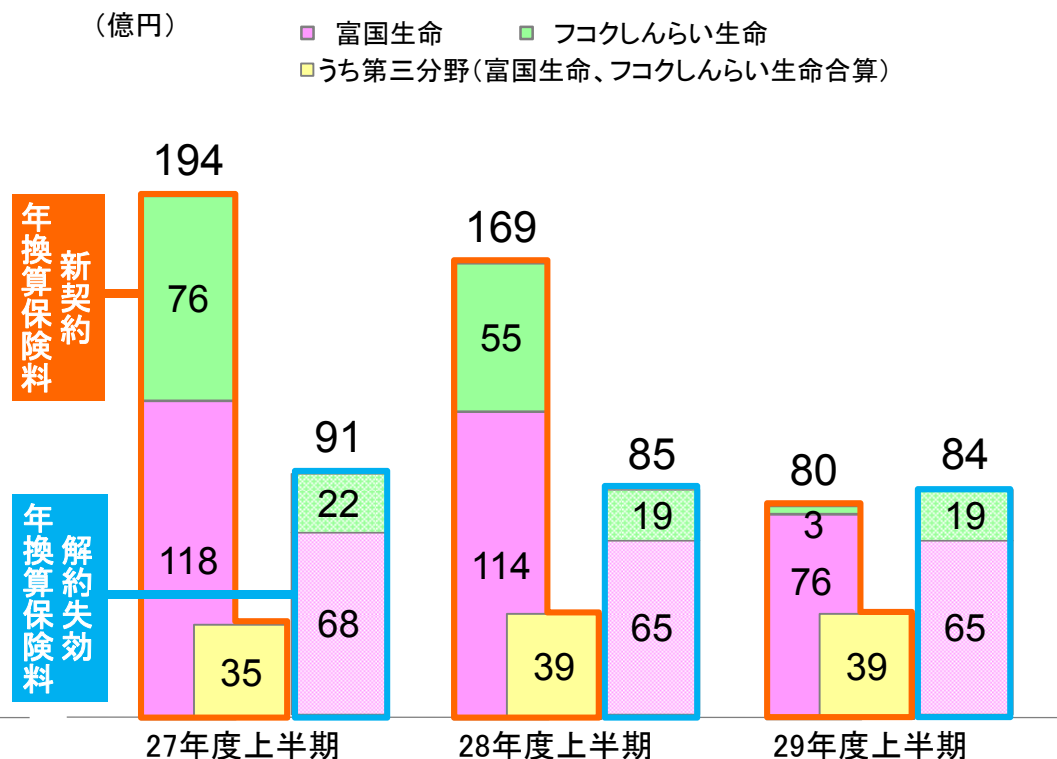
# 保険業績の状況(2社合算) ～新契約・解約失効～

※個人保険と個人年金の合計

## 新契約高・解約失効高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



## 新契約・解約失効年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



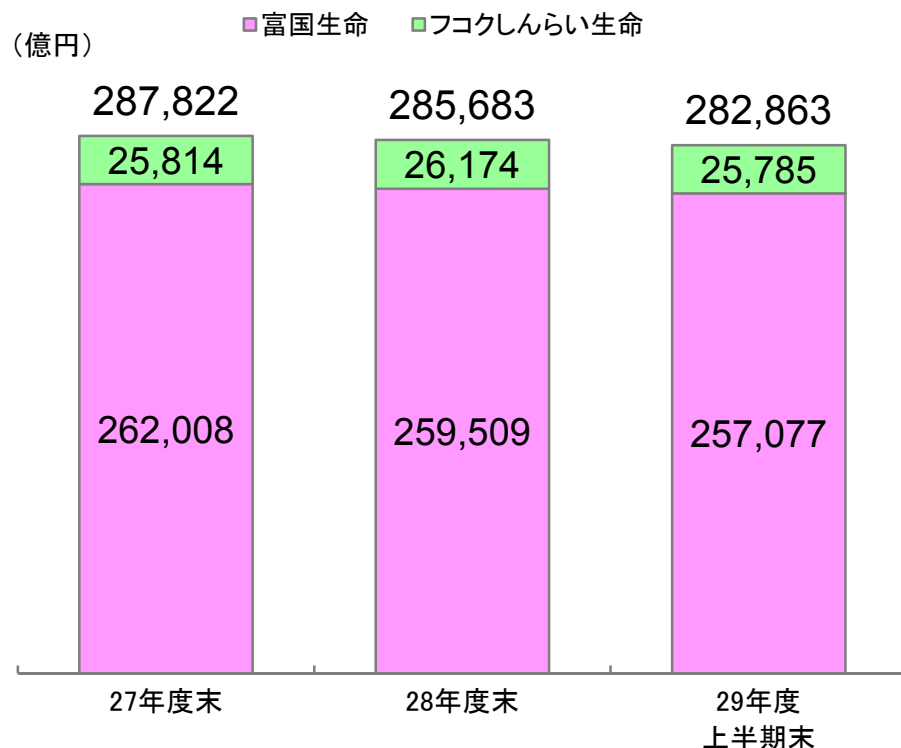
- 新契約高は富国生命、フコクしんらい生命ともに減少し、前年同期比21.1%減少
- 解約失効高は前年同期比1.9%減少し、前年度に引き続き改善

- 新契約年換算保険料は前年同期比52.8%減少
- 解約失効年換算保険料は前年同期比1.0%減少し、前年度に引き続き改善
- 第三分野の新契約年換算保険料は新商品発売効果のあった前年同期と同水準

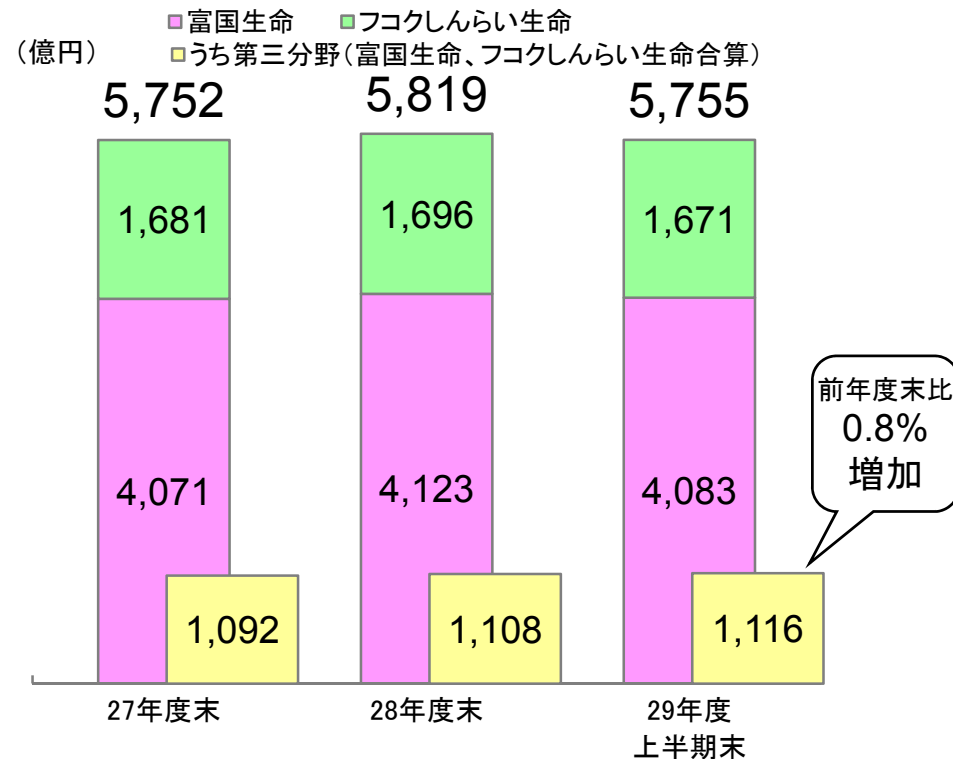
# 保険業績の状況(2社合算) ~保有契約~

※個人保険と個人年金の合計

保有契約高の推移  
(富国生命、フコクしんらい生命合算)



保有契約年換算保険料の推移  
(富国生命、フコクしんらい生命合算)

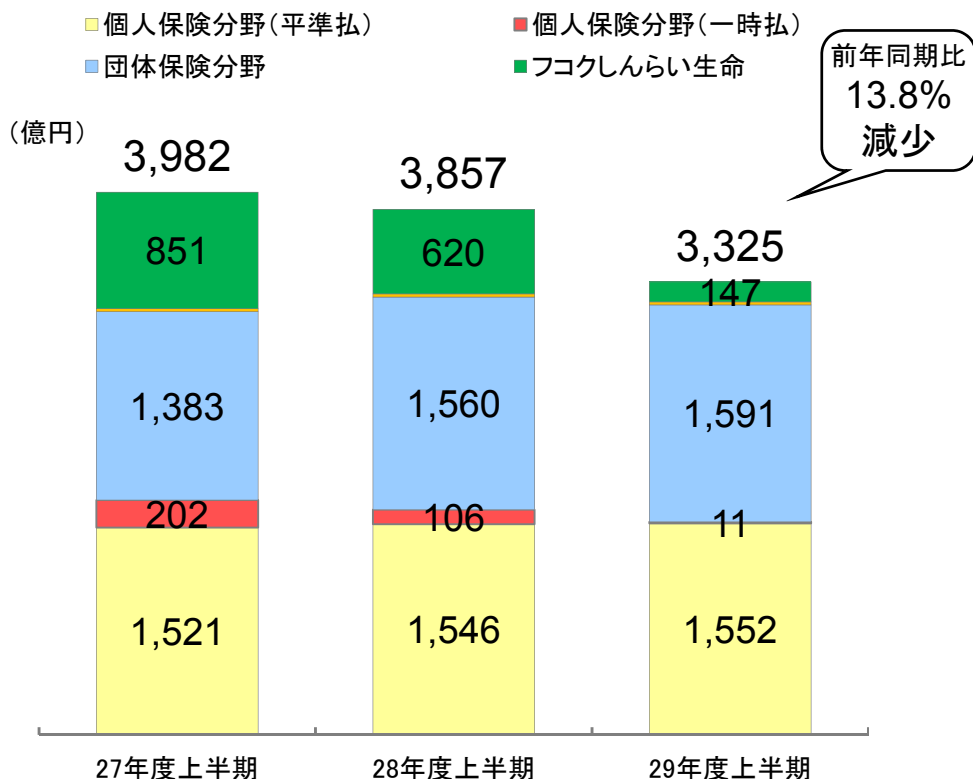


- 保有契約高は前年度末比1.0%減少
- 貯蓄性商品の影響により、縮小傾向にあった減少幅は若干拡大したものの、保有契約高の反転増加に向けて引き続き取り組む

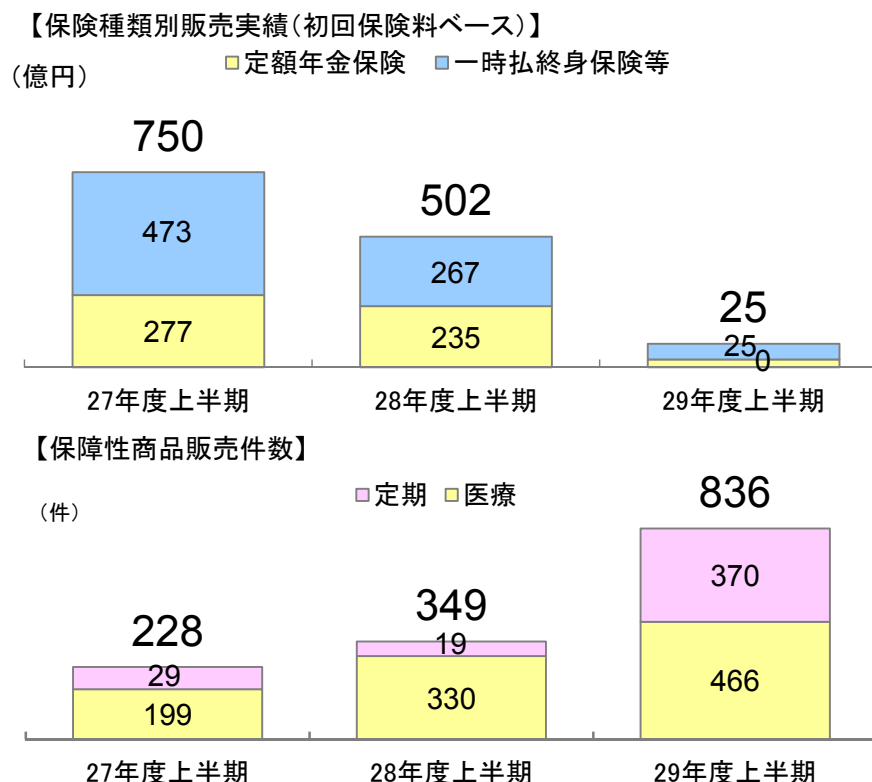
- 保有契約年換算保険料は、富国生命、フコクしんらい生命ともに減少し、前年度末比1.1%減少
- うち、第三分野の保有契約年換算保険は前年度末比0.8%増加の1,116億円

# 保険料等収入の状況(2社合算) ～保険料等収入・金融機関窓販～

## 保険料等収入の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



## 金融機関による保険販売の状況 (フコクしんらい生命の収入保険料)

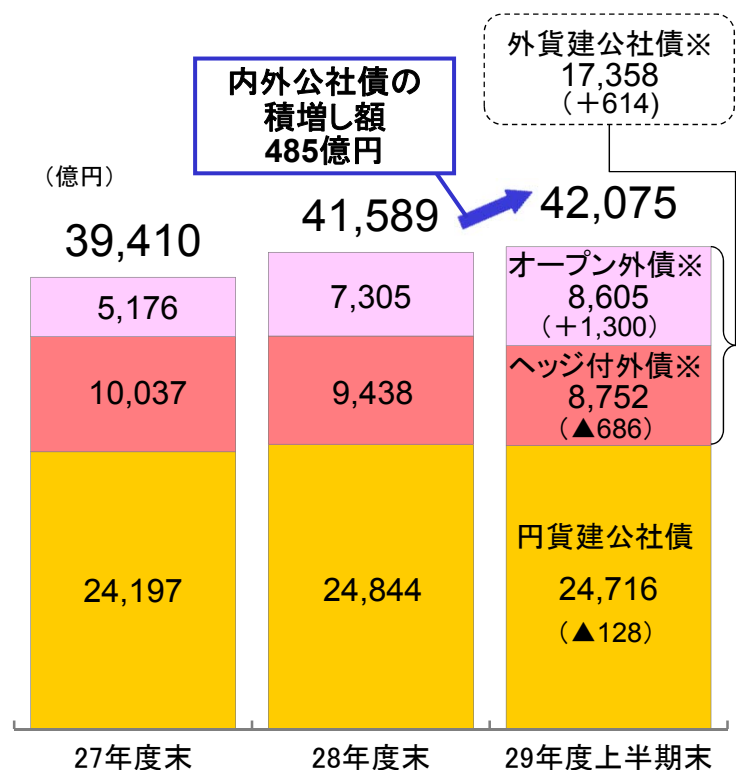


- 保険料等収入は富国生命の個人保険分野の一時払契約やフコクしんらい生命の減少などにより、前年同期比13.8%減少
- 富国生命の個人保険分野の平準払は堅調に推移

- 一時払の定額年金、終身保険の販売休止により大きく減少
- なお、一時払終身保険は平成29年7月より信用金庫チャネルにおいて販売を再開
- 保障性商品の件数は伸展しており、今後も引き続き定期保険および医療保険の販売に注力

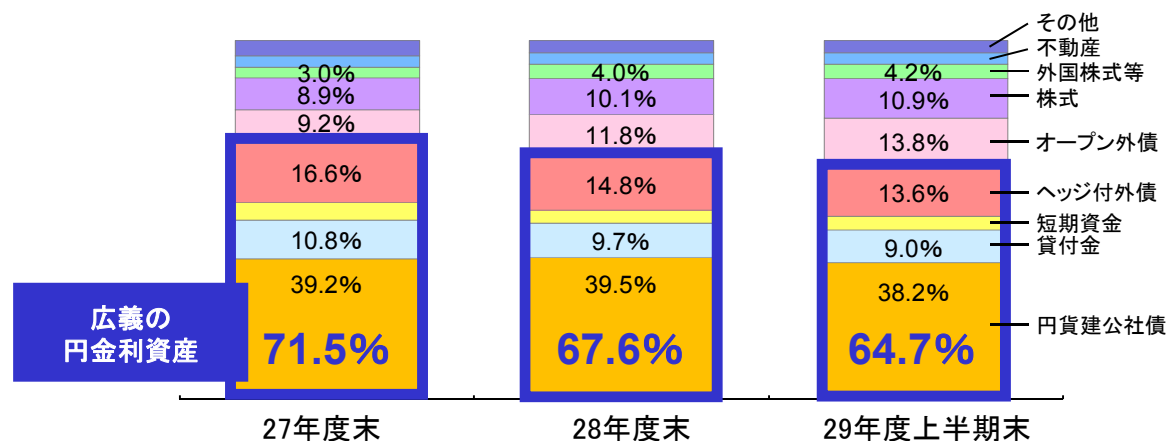
# 資産運用の状況(富国生命単体)

## 内外公社債(帳簿価額)の内訳

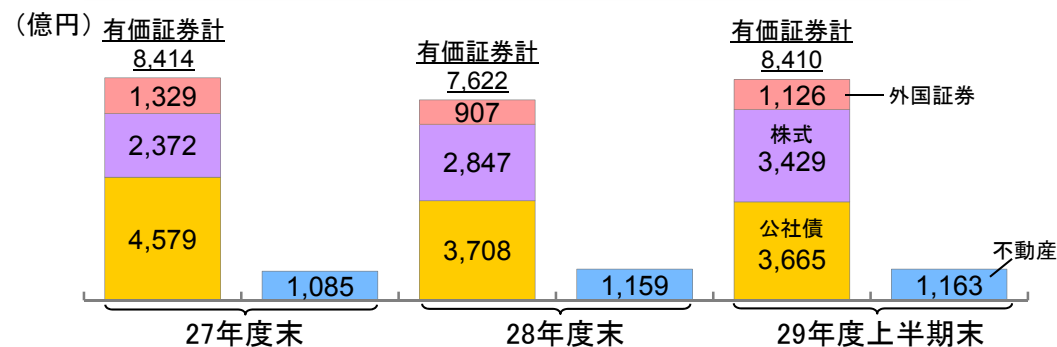


※ 損益計算書に計上した外貨建公社債の評価損益・為替換算損益を控除したもの

## 一般勘定資産の資産構成比(BSベース)



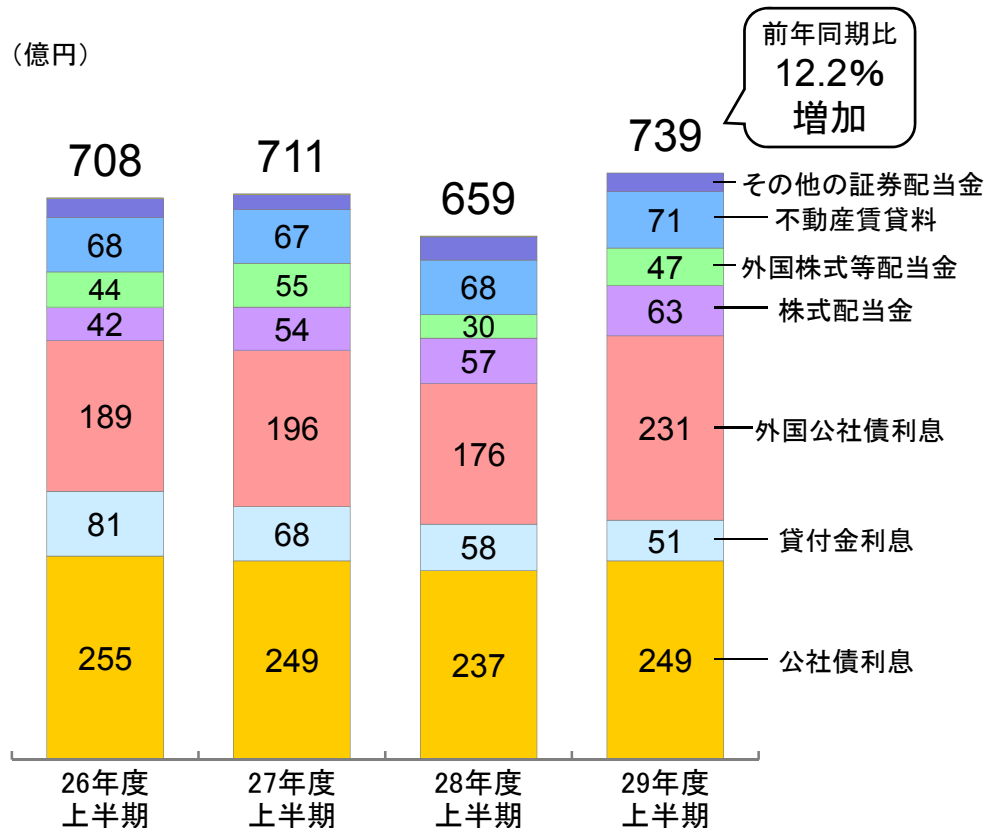
## 含み益の状況



- ・ 強固な財務基盤のもと、超低金利環境の長期化に備え、一定のリスクを取った資産運用を実践
- ・ 円貨建公社債の投資は抑制、外貨建公社債は米ドル以外の通貨分散を図りつつオープン外債を積増し
- ・ 有価証券の含み益は、内外株価の上昇や円安の進行などにより8,410億円と前年度末から増加

# 資産運用の状況(富国生命単体)

## 利息及び配当金等収入※の状況



※売買目的有価証券運用益(損)に含まれる利息及び配当金等収入を含む

## 資産運用高度化への取組み状況

より収益性の高い資産を今後5年間で  
5,000億円積み増す方針のもと、  
今上半期では約500億円の積増し

社債運用に強みのある  
米国投資顧問会社ペイデン&リゲル社と提携

収益性を確保しつつ社会貢献を果たすため  
アフリカの工業化支援を目的とした債券や  
グリーン・ボンドなどに投資

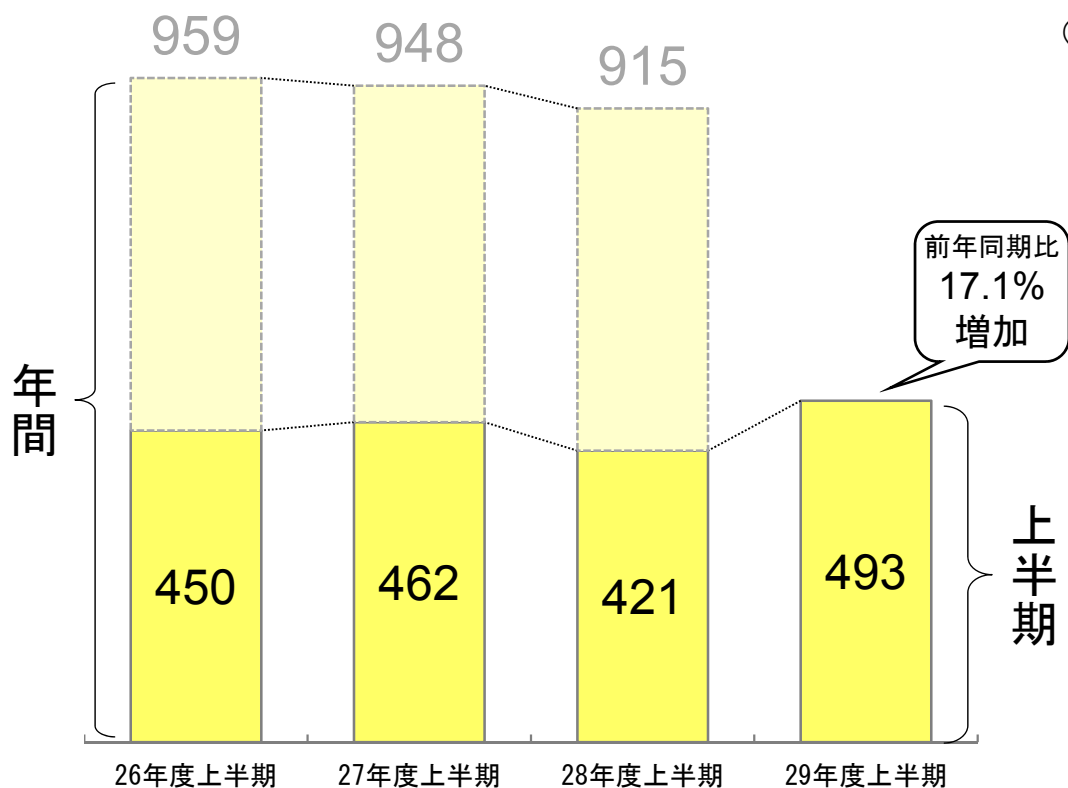
- 利息及び配当金等収入は、前年同期比12.2%増加の739億円
- 円安進行による外国公社債利息の増加や、好調な企業業績を受けた株式配当金の増加に加え、より収益性の高い資産の積増しに注力したことなどから、平成5年度上半期以来の高水準



# 基礎利益の状況(2社合算)

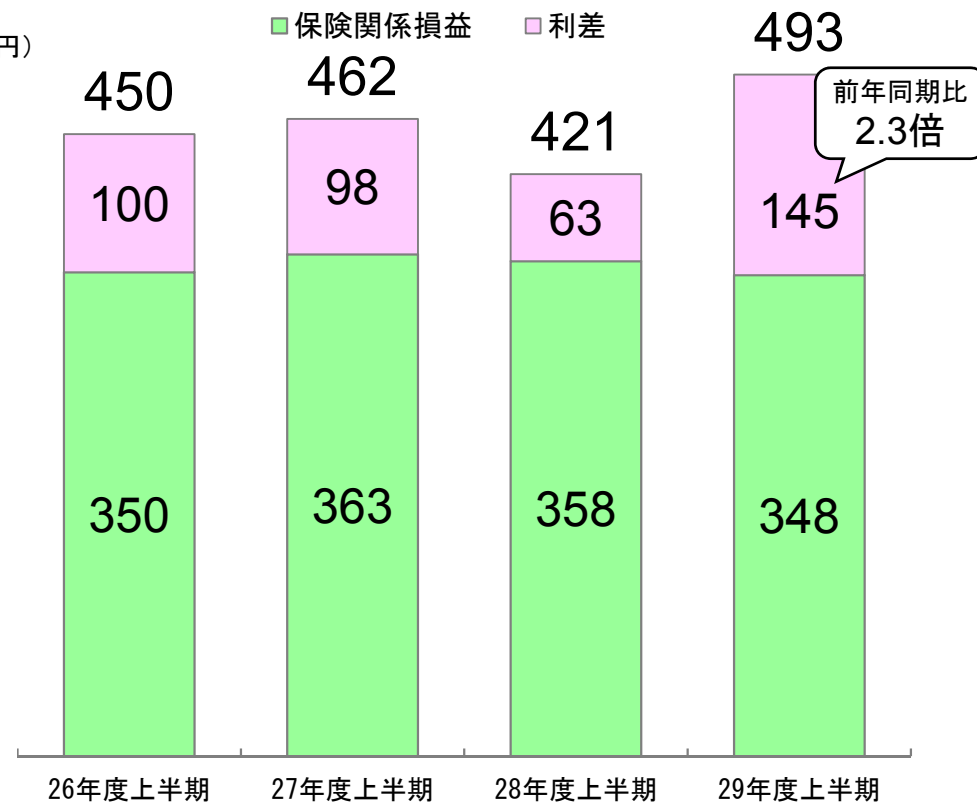
## 基礎利益の推移

(億円)



## 基礎利益の内訳

(億円)

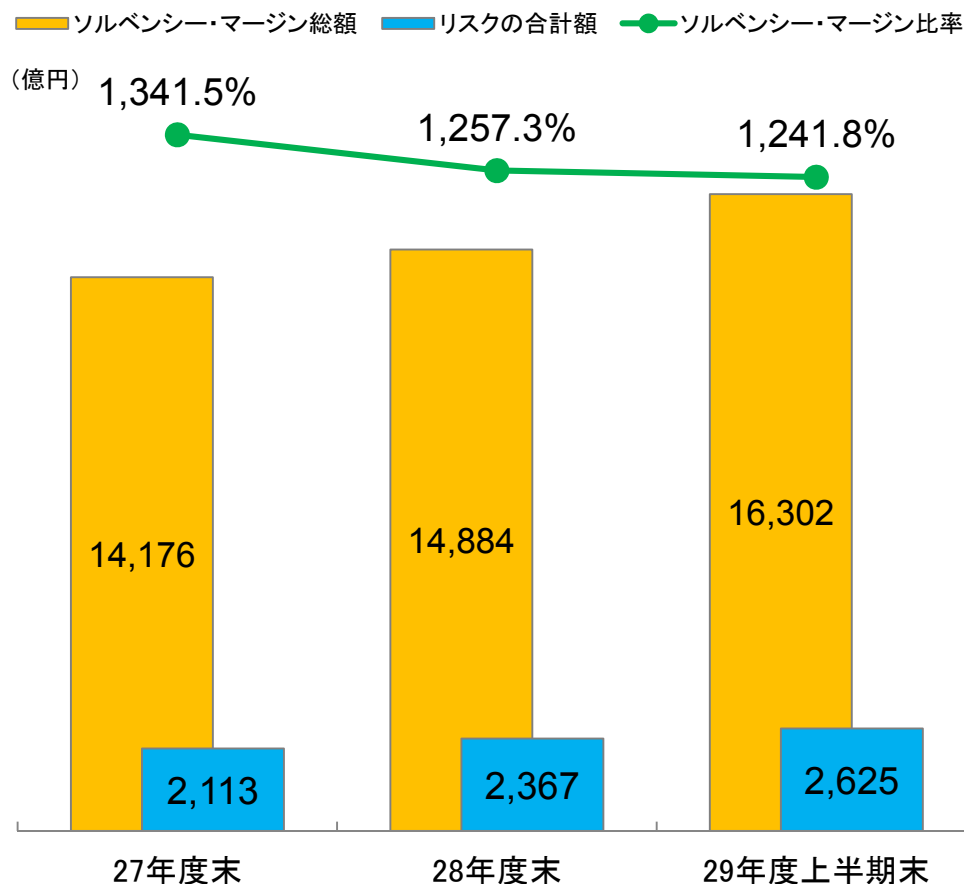


- 基礎利益は前年同期比17.1%増加の493億円となり、上半期においては平成13年度の開示以来最高

- 利息及び配当金等収入の増加により利差益が増加、保険関係損益(危険差+費差)も堅調に推移

# 健全性の状況

## ソルベンシー・マージン比率の推移(連結)



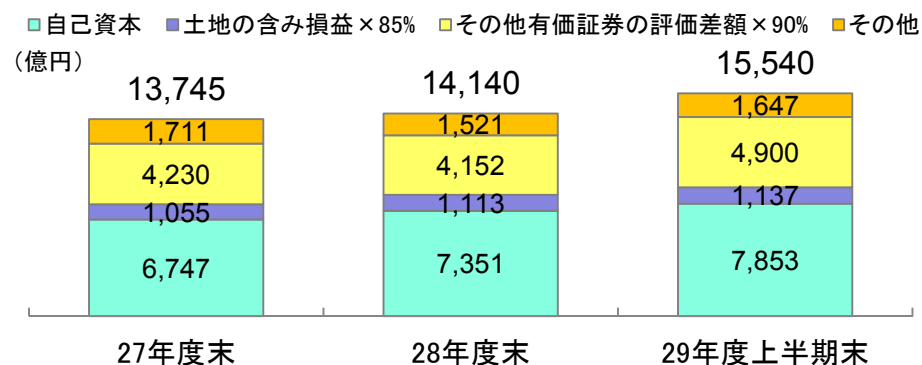
- 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から15.5ポイント低下となったものの、1,241.8%と引き続き高い水準を維持

## ソルベンシー・マージン比率の推移(単体)

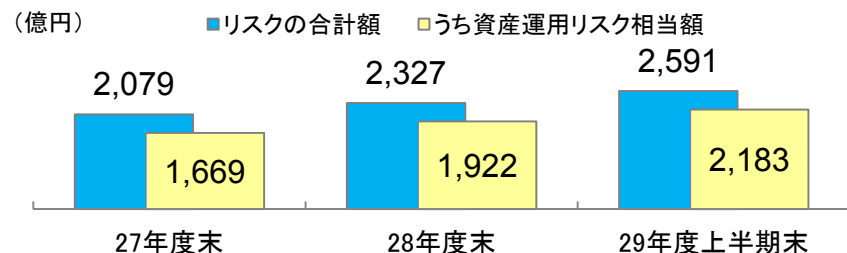
### ■ソルベンシー・マージン比率

項目	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度上半期末
ソルベンシー・マージン比率	1,321.8%	1,214.8%	1,199.2%
計算式	$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$		

### ■ソルベンシー・マージン総額(A)



### ■リスクの合計額(B)

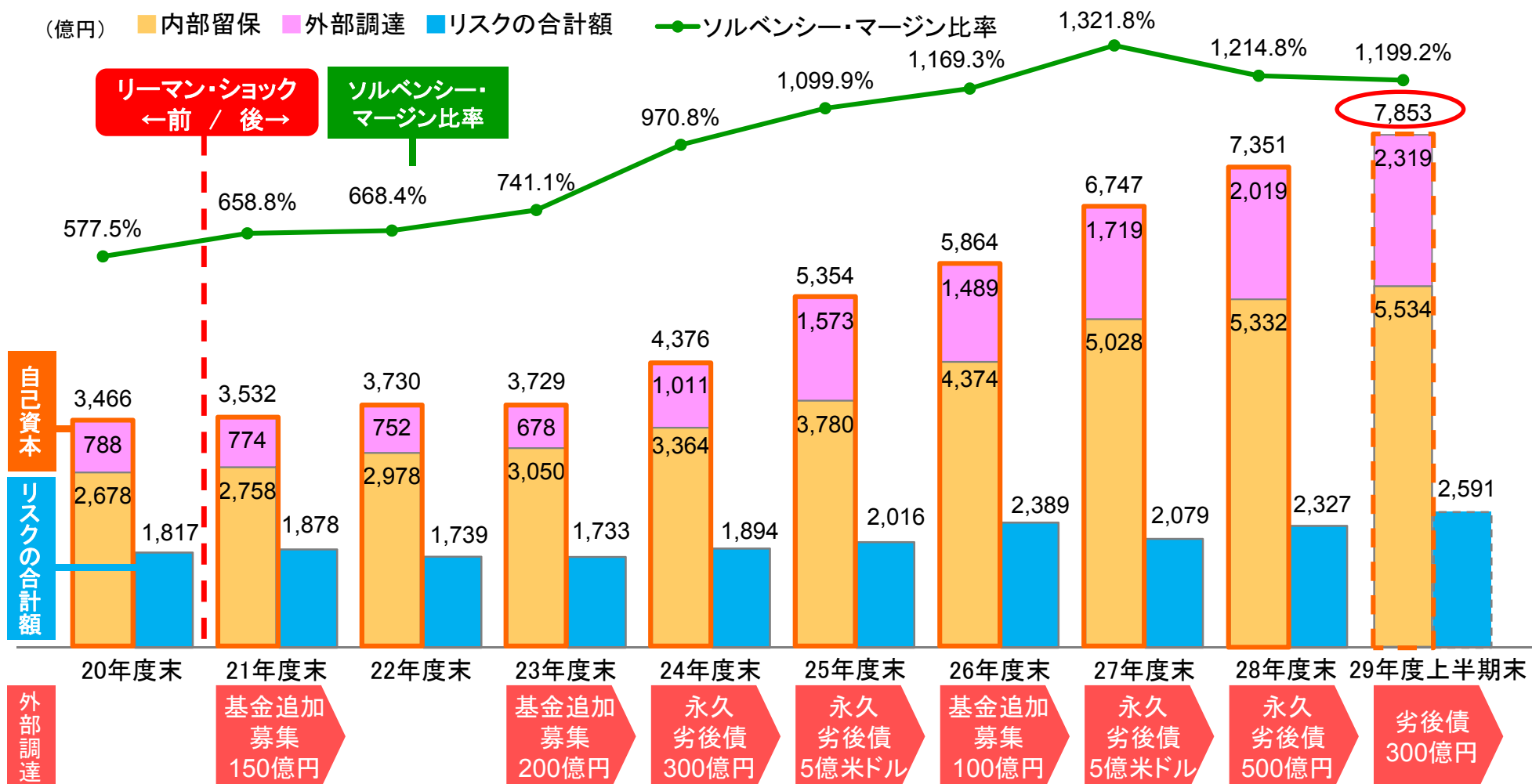


- 劣後債の発行や含み益の増加などでマージン総額は増加したものの、オープン外債の積増しや株価の上昇などに伴うリスクの合計額の増加により、前年度末から15.6ポイント低下の1,199.2%

# オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール(富国生命単体)

【ソルベンシー・マージン比率の長期推移および内訳】

(億円) ■ 内部留保 ■ 外部調達 ■ リスクの合計額



※平成22年度以前のソルベンシー・マージン比率等は、現行基準を基に算出した参考数値

- 自己資本の一層の強化を図ることを目的として、9月に劣後特約付社債(300億円)を発行
- 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- 統合的リスク管理(ERM)を着実に推進

# 経営の差別化の歴史

自主独立路線のもと、経営の差別化を図る

## 保険販売・商品戦略

■ 「お客さま基点」に向けた取組みを開始【2005(H17)年度】

■ 「お客さま基点」を価値観に位置付ける【2008(H20)年度】

■ 徹底した差別化でお客さまから最も評価される会社へ

■ 業界初の保障内容を盛り込んだ新医療保険『医療大臣プレミアイト』を発売【2016(H28)年度】

■ 生保業界初となる特約組立型の主力商品『未来のとびら』を発売【2013(H25)年度】

■ 窓販チャネルを子会社(フコクしんらい生命)に分離【2008(H20)年度】

■ セコム損保との提携による生損保セット型商品の提供【2004(H16)年度】

■ 金融機関窓販は、地域密着型の信用金庫に注力【2002(H14)年度】

■ 自己責任原則が浸透していない中、「変額保険」は販売せずの方針

■ 医療保険の提供による第三分野への注力【1983(S58)年度】

■ 他社に先駆けて「保有純増主義」を打ち出す【1981(S56)年度】

■ 継続率改善への取り組み

■ 効率的な職域営業の取り組みを開始

■ 経営理念：ご契約者の利益擁護

■ 『最大たらんよりは最優たれ』

■ 円高局面で外国公社債を積み増し⇒収益性向上

■ 金融資本市場が混乱する中、リスク性資産を機動的に圧縮

■ 基金の証券化、ユーロ建劣後債発行等の資金調達の多様化

■ 不透明な運用環境の中、流動性を重視し、国内公社債中心の運用ヘシフト

■ リスク性資産(不動産・株式)への投資を抑制

■ 本社ビルの建設【1980(S55)年】

■ 業界初の平準純保険料式責任準備金の積立【1961(S36)年度決算】

■ 高度経済成長の始まりにおいて、株式投資に積極的に取り組む

## 資産運用戦略

## 財務戦略

# 経営の差別化の歴史～保険販売・商品戦略～

## 第三分野への取組み

H12～ 介護保険

H15～ 新介護保険  
H21～ 要介護1 から保障

H23～ 就業不能状態を保障

H25～ 特約組立型 総合保険

万への備え

身体障がい・介護への備え

就業不能への備え

保険料払込免除

ちょうどいい、わたしの保険  
**未来のとびら**

S58～ 医療保険

H13～ 医療大臣

H21～ 医療大臣  
日帰り入院からきっちり保障の医療保険

H28～ 医療大臣 プレミアエイト  
8大疾病をしっかり保障

業界初の医療特約

S62～ 通院特約

H4～ 高度先進医療特約

H14～ 移植医療特約

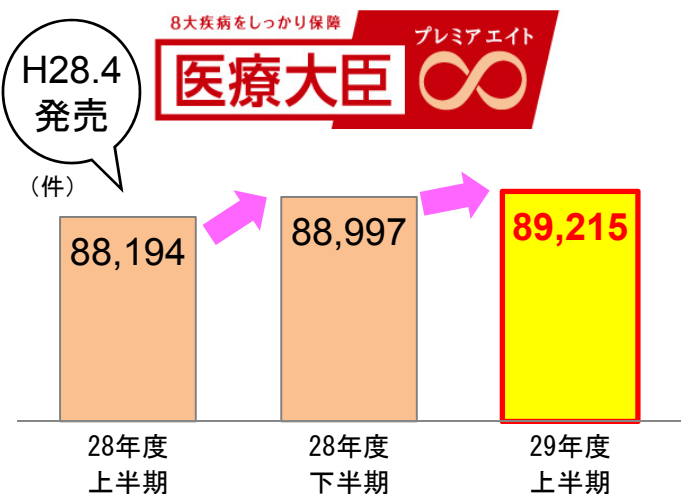
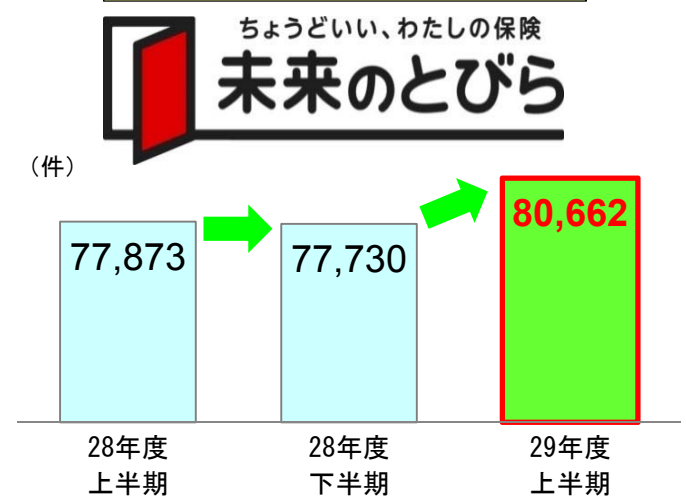
従来の保障内容をバージョンアップ  
8大生活習慣病による長期入院や  
出産など業界初の保障も拡充

生損保セット型商品の提供

H16～ セコム損保のガン保険  
「自由診療保険メディコムプラス」  
(H21.1～ 補償範囲を通院によるがん治療まで拡大)

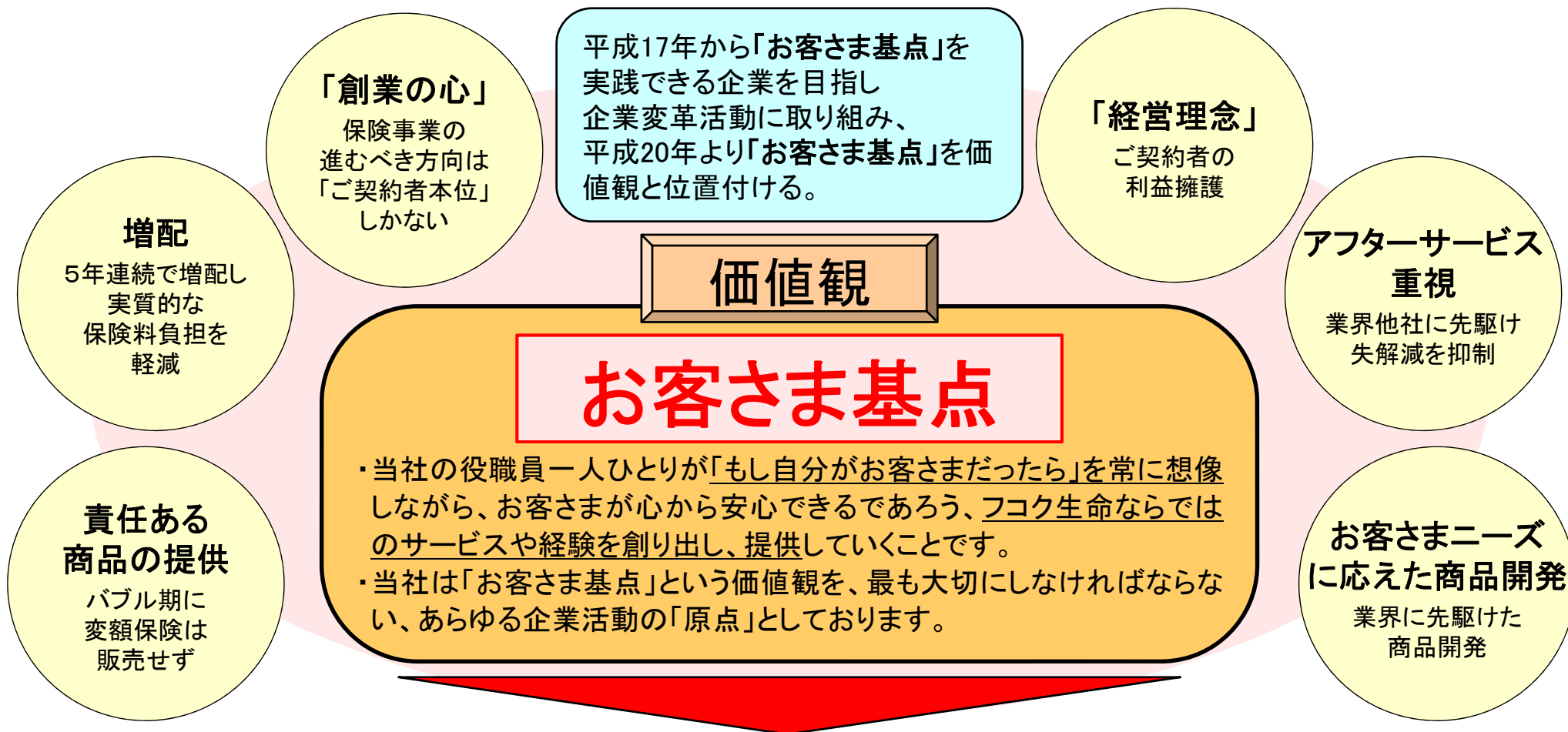
- ・ 昭和58年より医療保険を提供するなど、第三分野に注力
- ・ 業界に先駆けた商品開発(特約組立型総合保険、移植医療特約など)
- ・ 平成23年5月より就業不能保障特約を発売(累計販売件数:43万件)

## 主力商品の販売件数



- ・ 医療保険の新商品発売効果があった前年度を上回る販売件数

# 価値観としての「お客さま基点」



## 「コーポレートガバナンス基本方針」の公表と実践

持続的かつ安定的に事業を継続し、ご契約者に安心を提供するため、基本方針に基づきコーポレートガバナンス体制を構築

## 「お客さま基点の業務運営方針」の公表と実践

「お客さま基点」に基づいたお客さま本位の業務運営を行い、長期にわたりお客さまの負託にお応えしていく

## 「日本版ステewardシップ・コード」の受入れと実践

お客さまからお預かりした大切な保険料の中長期的なリターンの拡大に資するようステewardシップの実効性を高めていく

# (ご参考) 主要業績①

## 保有契約の状況(富国生命、フコクしんらい生命合算)

### 個人保険(個人保険+個人年金保険)

保有契約高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	244,354	99.7	240,911	99.2	242,866	99.1
個人年金保険	42,437	99.5	41,952	98.0	42,817	100.4
保有契約高	286,792	99.6	282,863	99.0	285,683	99.3

新契約高・解約失効高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期		平成28年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	8,275	92.8	7,081	85.6	16,382	92.3
個人年金保険	820	76.8	95	11.6	2,136	94.2
新契約高	9,096	91.1	7,176	78.9	18,519	92.5
解約失効高	6,795	95.6	6,663	98.1	13,791	97.4
(解約失効率)	(2.36%)	△ 0.09 ポイント	(2.33%)	△ 0.03 ポイント	(4.79%)	△ 0.10 ポイント

保有契約年換算保険料

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	3,170	100.8	3,170	99.4	3,190	101.5
個人年金保険	2,618	100.4	2,584	98.3	2,628	100.8
保有契約年換算保険料合計	5,788	100.6	5,755	98.9	5,819	101.2
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,101	100.8	1,116	100.8	1,108	101.5

新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期		平成28年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	125	91.2	77	61.6	241	89.5
個人年金保険	44	77.2	2	6.5	89	71.1
新契約年換算保険料合計	169	87.1	80	47.2	330	83.7
うち医療保障・ 生前給付保障等	39	113.0	39	99.5	78	111.1
解約失効	85	93.8	84	99.0	168	92.7
(解約失効率)	(1.49%)	△ 0.13 ポイント	(1.46%)	△ 0.03 ポイント	(2.92%)	△ 0.30 ポイント

### 団体保険(団体保険、団体年金保険)

保有契約高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
団体保険	175,280	101.1	171,849	98.5	174,460	100.6
団体年金保険	21,519	101.6	21,726	100.7	21,567	101.8

- ・解約失効率は保険金額ベースで前年同期比0.03ポイント改善、保険料ベースで前年同期比0.03ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比1.1%の減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比0.8%の増加
- ・新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)のうち医療保障・生前給付保障等は前年同期比0.5%の減少

## (ご参考) 主要業績②

### 保有契約の状況(富国生命単体)

#### 個人保険(個人保険+個人年金保険)

##### 保有契約高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	233,016	99.5	229,801	99.2	231,606	98.9
個人年金保険	27,452	98.6	27,276	97.8	27,903	100.3
保有契約高	260,468	99.4	257,077	99.1	259,509	99.0

##### 新契約高・解約失効高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期		平成28年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	7,677	94.2	6,979	90.9	15,601	95.6
個人年金保険	411	77.4	90	22.1	1,582	156.8
新契約高	8,088	93.2	7,070	87.4	17,184	99.2
解約失効高	6,445	95.8	6,334	98.3	13,135	97.9
(解約失効率)	(2.46%)	△0.07 ポイント	(2.44%)	△0.02 ポイント	(5.01%)	△0.04 ポイント

#### 保有契約年換算保険料

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	2,756	100.3	2,763	99.4	2,779	101.2
個人年金保険	1,322	100.0	1,320	98.3	1,343	101.6
保有契約年換算保険料合計	4,079	100.2	4,083	99.0	4,123	101.3
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,084	100.9	1,099	100.8	1,091	101.5

#### 新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期		平成28年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	100	101.3	73	73.3	212	106.1
個人年金保険	13	73.1	2	20.0	50	148.5
新契約年換算保険料合計	114	96.9	76	67.0	263	112.3
うち医療保障・ 生前給付保障等	39	113.3	39	99.1	78	111.4
解約失効	65	96.3	65	99.6	131	95.5
(解約失効率)	(1.61%)	△0.07 ポイント	(1.59%)	△0.02 ポイント	(3.23%)	△0.16 ポイント

#### 団体保険(団体保険、団体年金保険)

##### 保有契約高

(単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期末		平成29年度 上半期末		平成28年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
団体保険	171,554	101.1	168,876	98.5	171,515	101.1
団体年金保険	21,519	101.6	21,726	100.7	21,567	101.8

- ・解約失効率は保険金額ベースで前年同期比0.02ポイント改善、保険料ベースで前年同期比0.02ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比1.0%の減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比0.8%の増加
- ・新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)のうち医療保障・生前給付保障等は前年同期比0.9%の減少



# (ご参考) 主要業績③

## 収支の状況

### 保険関係収支

(富国生命、フコクしんらい生命合算) (単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
保険料等収入	3,857	96.9	3,325	86.2
うち個人保険分野	2,269	88.3	1,705	75.2
うち団体保険分野	1,564	112.7	1,595	102.0

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
保険料等収入	3,237	103.4	3,178	98.2
うち個人保険分野	1,653	95.9	1,563	94.6
うち団体保険分野	1,560	112.8	1,591	102.0
保険金等支払金	2,639	80.0	2,803	106.2

(注) 保険料等収入の個人保険分野は個人保険と個人年金保険、団体保険分野は団体保険と団体年金保険の合計額を、それぞれ記載しています。

### 【金融機関による保険販売の状況】(フコクしんらい生命実績)

(単位: 件、億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
新契約件数	18,807	68.6	1,513	8.0
保険料	502	66.9	25	5.0

※平準払契約については初回保険料の単純合計

### 資産運用関係収支

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	平成28年度 上半期		平成29年度 上半期		
		前年同期比		前年同期比	
一般勘定	資産運用収益	990	111.6	932	94.1
	うち利息及び 配当金等収入	628	94.7	710	113.0
	資産運用費用	426	208.2	259	60.8
	資産運用関係収支	564	82.5	672	119.3
特別勘定資産運用損益	△11	43.7	49	-	

### 基礎利益

(富国生命単体)

(単位: 億円)

	平成28年度 上半期	平成29年度 上半期
基礎利益 A	407	482
危険差 + 費差	357	351
利差	49	130
キャピタル損益 B	△29	1
臨時損益 C	1	△0
経常利益 A+B+C	378	483

(富国生命、フコクしんらい生命合算)

(単位: 億円)

	平成28年度 上半期	平成29年度 上半期
基礎利益	421	493

# (ご参考) 主要業績④

## 資産・健全性の状況

### 資産の構成

(富国生命単体)

(単位: 億円、%)

区 分	平成28年度 上半期末		平成28年度末		平成29年度 上半期末	
	金額	占率	金額	占率	金額	占率
総 資 産	64,379		65,656		67,355	
うち一般勘定資産	63,668	100.0	64,899	100.0	66,554	100.0
うち公社債	26,926	42.3	28,435	43.8	28,728	43.2
うち株式	5,614	8.8	6,565	10.1	7,277	10.9
うち外国証券	17,152	26.9	17,026	26.2	17,798	26.7
うち貸付金	6,498	10.2	6,277	9.7	5,958	9.0

### 含み損益の状況(一般勘定)

(富国生命単体)

(単位: 億円)

区 分	平成28年度 上半期末	平成28年度末	平成29年度 上半期末
	差損益	差損益	差損益
有 価 証 券 合 計	7,701	7,622	8,410
うち公社債	4,591	3,708	3,665
うち株式	2,157	2,847	3,429
うち外国証券	833	907	1,126
不動産(土地・借地権)	1,087	1,159	1,163
合 計	8,789	8,781	9,573

### 健全性を示す指標

(富国生命単体)

(単位: 億円)

項 目	平成28年度 上半期末	平成28年度末	平成29年度 上半期末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	13,130	14,140	15,540
リスクの合計額 (B)	2,191	2,327	2,591
ソルベンシー・マージン比率 (A) × 100 (1/2) × (B)	1,198.1%	1,214.8%	1,199.2%

(単位: 億円)

	平成28年度 上半期末	平成28年度末	平成29年度 上半期末
実質純資産額	15,883	16,236	17,142
対一般勘定資産比率	24.9%	25.0%	25.8%

(連結ベース)

(単位: 億円)

項 目	平成28年度 上半期末	平成28年度末	平成29年度 上半期末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	13,590	14,884	16,302
リスクの合計額 (B)	2,229	2,367	2,625
ソルベンシー・マージン比率 (A) × 100 (1/2) × (B)	1,218.9%	1,257.3%	1,241.8%

(単位: 億円)

	平成28年度 上半期末	平成28年度末	平成29年度 上半期末
実質純資産額	18,450	18,353	19,231